

平成23年(2011年)1月17日 (月曜日)

大和合金 鍛造用加熱炉を増設 特殊鉄系合金の加工強化

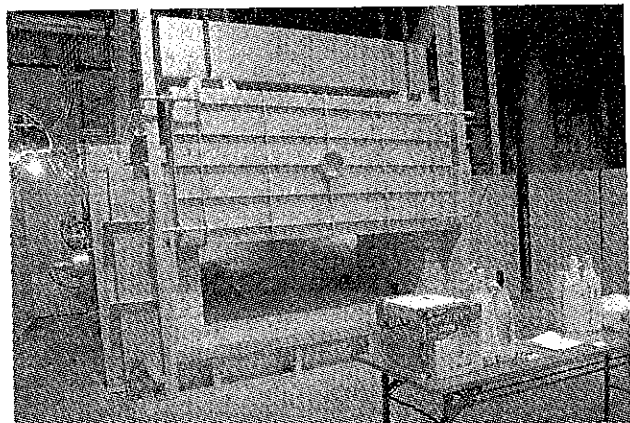
銅合金鑄鍛メーカーの大和合金(本社・東京都板橋区、社長・萩野茂雄氏)はこのほど、鍛造向けの加熱炉2基を1基増設した。新型炉は1100度まで温度を上げられるため、銅合金に加え、鉄系合金も効率よく加工できる。投資金額は、ガス配管の工事など含めて約2千万円。同社

の加熱炉は4基体制となる。増設を機に、ここは温度管理などで独自のノウハウが必要な特殊鉄系合金の加工も増やしていきたい考えだ。

同社は銅合金で、溶解・鑄鍛・押出などの加工を一環で行う金属メーカー。一昨年には客先からインゴットの提供を受けて特殊鉄系

合金の鍛造事業も新たに始めており、機械部品の中間加工などを受注している。

今回、製造部門の3芳合金(埼玉県三芳町)に導入した加熱炉は横220センチ、奥行185センチ、高さ100センチのサイズ。同社で最も大型の2トタイプのエアハンマー専用にある。これまで2トタ



るメリットも出る。2トハンマーでは銅合金のモーター用銅リングや半導体製造装置向けの円盤、熱交換機向けの板材などを中心に加工している。

イプは他のハンマーと加熱炉を共有していたが、専用の炉ができたことで銅合金の大型製品で操業効率が改善す

昨年12月18日には約80人が出席して三芳合金で火入れ式を行っており、翌日からすでに戦力化している。